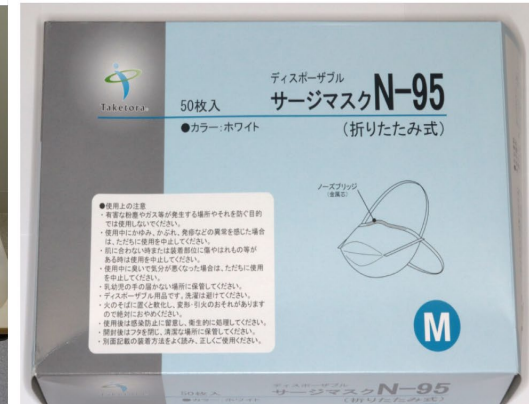




2020年度

千葉県歯科医師会様(会長：砂川先生)、須山歯研様から寄贈品をいただきました

新型コロナウイルス感染症予防のため千葉県歯科医師会様(会長：砂川先生)からN95マスクを、須山歯研様から自作のフェイスシールドを寄付いただきました。医局員一同、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。





2020年度

2021/3/15 'Scientific Reports'誌に論文が掲載されました

加瀬裕太郎先生の論文「Engineered exosomes delivering specific tumor-suppressive RNAi attenuate oral cancer progression」が「Scientific Reports」(IF : 4.379) に掲載されました。本研究は、口腔癌細胞膜をターゲットとした exosomes を作製し、それに癌抑制性 siRNA を搭載させた癌標的型 engineered exosomes (eExosomes) の開発ならびに eExosomes による腫瘍増殖抑制効果を報告しています。ぜひご一読ください。 doi: 10.1038/s41598-021-85242-1.





2021年度

2021/6/18 第45回日本頭頸部癌学会 総会・学術講演会

2021/6/17～6/18にグランドニッコー東京ベイ 舞浜で開催された第45回日本頭頸部癌学会 総会・学術講演会にて駒綾香先生が優秀ポスター賞を受賞しました。

演題名：癌抑制型microRNA (miR-139-5p/miR-139-3p) が制御する頭頸部扁平上皮癌・癌促進型遺伝子の探索

千葉大学大学院 口腔科学講座が医学系総合研究棟（治療学研究棟）に移転しました

2021年4月、千葉大学亥鼻キャンパスに医学系総合研究棟（治療学研究棟）が完成し、8月3日に口腔科学講座も新棟9階に移転しました。新しい環境のもとに最先端の基礎研究の成果を新規治療法の開発に結びつけられるように努力して参ります。





2021年度

2021/9/14 'International Journal of Molecular Sciences'誌に論文が掲載されました

駒綾香先生の論文「Impact of Oncogenic Targets by Tumor-Suppressive miR-139-5p and miR-139-3p Regulation in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma」が「International Journal of Molecular Sciences」(IF : 5.924) に掲載されました. 本研究は, 本研究は, 頭頸部扁平上皮癌で発現が抑制されていた癌抑制型microRNAとその標的候補遺伝子を機能解析とin silico解析より探索し, 頭頸部扁平上皮癌における分子メカニズムの一端を明らかにしました.ぜひご一読ください.
doi:10.3390/ijms22189947.





2021年度

2021/10/27 'Bone'誌に論文が掲載されました

齋藤智昭先生の論文「Decrease of lysyl hydroxylase 2 activity causes abnormal collagen molecular phenotypes, defective mineralization and compromised mechanical properties of bone」が「Bone」(IF : 4.398) に掲載されました。本研究は、I型コラーゲンの安定化に関与するLysyl hydroxylases2 (LH2) のLH2ノックアウト (LH2^{-/-}) マウスの作製の過程で得られたLH2ヘテロマウス (LH2^{+/-}) を用いて、LH2発現低下に伴う骨のphenotypeを多角的に解析しています。 doi:10.1016/j.bone.2021.116242.

LH2については、Lysine残基の水酸化を特異的に触媒するLysyl hydroxylases (LHs) の3つのアイソフォームのうち、LH2がコラーゲン分子のテロペプチド領域に特異的に作用して骨髄幹細胞の分化に影響をおよぼすことを鵜澤一弘先生が1999年に「J Bone Miner Res. 1999 Aug;14(8):1272-80. doi: 10.1359/jbmr.1999.14.8.1272.」で報告しており、本分子が骨代謝のみならず口腔癌の進展にも深く関与することを齋藤智昭先生が「J Dent Res. 2019 May;98(5):517-525. doi:10.1177/0022034519828710.」で報告しております。また、LH2ノックアウトが胎生致死を引き起こすことを笠松厚志先生が「Biochem Biophys Res Commun. 2019 May 7;512(3):486-491. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.03.091.」で報告しております。併せてぜひご一読ください。





2021年度

2021/11/24 'International Journal of Molecular Sciences'誌に論文が掲載されました

加瀬郁子先生の論文「Molecular Pathogenesis of the Coronin Family: CORO2A Facilitates Migration and Invasion Abilities in Oral Squamous Cell Carcinoma」が「International Journal of Molecular Sciences」(IF : 5.924) に掲載されました。本研究は、アクチン結合タンパク質として知られるCoronin familyの一つであるCORO2Aについて、OSCCにおける癌促進機能について明らかにしました。さらに、CORO2Aを制御する癌抑制型microRNAであるmiR-125b-5p およびmiR-140-5p に着目し、OSCCにおける癌抑制機能を報告しております。ぜひご一読ください。doi: 10.3390/ijms222312684

2021/11/27 'Genes'誌に論文が掲載されました

田中 希先生の論文「Identification of miR-199-5p and miR-199-3p Target Genes: Paxillin Facilitates Cancer Cell Aggressiveness in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma」が「Genes」(IF : 4.096) に掲載されました。本研究は、細胞接に関与する細胞骨格タンパク質をコードするPaxillinについて、OSCCにおける癌促進機能について明らかにしました。さらに、Paxillinを制御する癌抑制型microRNAであるmiR-199a-5p, miR-199a-3pに着し、癌抑制機能を報告しております。ぜひご一読ください。doi : 10.3390/genes12121910





2021年度

2021/11/30 第66回日本口腔外科学会総会・学術大会

2021/11/12～14に幕張メッセ国際会議場で開催された第66回日本口腔外科学会総会・学術大会にて、笠松厚志先生が優秀ポスター発表賞、永塚啓太郎先生が最優秀口演発表賞を受賞しました。

演題名：頭頸部放射線治療後の唾液腺障害に対する新規細胞治療法の開発（笠松厚志）

演題名：包括的口腔癌ゲノム解析による癌抑制型マイクロRNAを基盤とした新規治療標的分子探索（永塚啓太郎）





2021年度

2021/11/30 'Biochemical and Biophysical Research Communications'誌に論文が掲載されました

野崎龍之介先生の論文「Lysyl hydroxylase 2 deficiency promotes filopodia formation and fibroblast migration」が「Biochemical and Biophysical Research Communications」(IF : 3.575) に掲載されました。Lysyl Hydroxylase 2 (LH2) は、コラーゲン分子間の架橋構造を規定しており、LH2で修飾されたコラーゲンは、安定性が高くコラゲナーゼで切断されにくいため、線維化の原因の一つとされています。本研究は、LH2コンディショナルノックアウトマウスを作製し、同マウス由来の線維芽細胞を樹立することで未知なるLH2機能の一端を明らかにすることを目的としました。この細胞モデルは、LH2が欠損すると、細胞の運動機能に重要な役割を果たすことがわかりました。したがってこの表現型の正確な役割を理解することは、線維症の病態や創傷治癒を解明するのに役立つと考えられます。ぜひご一読ください。
DOI: 10.1016/j.bbrc.2021.11.100





2021年度

2021/12/15 'Cancers'誌に論文が掲載されました

川崎晃平先生の論文「Ginkgolide B Regulates CDDP Chemoresistance in Oral Cancer via the Platelet-Activating Factor Receptor Pathway」が「Cancers」(IF: 6.639)に掲載されました。本研究は、口腔癌(OSCC)において血小板活性化因子受容体経路であるPAF/PAFR経路が抗癌剤(シスプラチン)の感受性に関わっていることを明らかにしました。さらに、PAFRの選択的阻害剤であるGinkgolide B (GB)がOSCC患者に対するシスプラチンとの併用療法の新規治療薬となる可能性を報告しております。ぜひご一読ください。doi: 10.3390/cancers13246299

2022/2/1 'Biochemical and Biophysical Research Communications'誌に論文が掲載されました

野淵嵩史先生の論文「Assay for transposase-accessible chromatin with high-throughput sequencing reveals radioresistance-related genes in oral squamous cell carcinoma cells」が「Biochemical and Biophysical Research Communications」(IF: 3.575)に掲載されました。本研究では、ATAC-seqを用いて口腔癌(OSCC)細胞を全ゲノム的に解析し、放射線暴露後に抵抗性細胞でのみ発現が有意に上昇する遺伝子、アデニル酸シクラーゼ2 (ADCY2)を同定しました。さらにADCY2の発現量が放射線感受性に影響を及ぼすことを明らかにし、放射線耐性OSCCに対する新規治療標的としての可能性を報告しております。ぜひご一読下さい。DOI:10.1016/j.bbrc.2022.01.122





2021年度

2022/2/14 第40回日本口腔腫瘍学会

2022/2/14～3/13にWEB開催された第40回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、鵜澤一弘教授が第11回教育研修会教育講演およびワークショップコーディネーターを行いました。笠松厚志臨床准教授は、講演およびワークショップコーディネーターを行いました。

- 鵜澤一弘教授

教育講演：口腔がん治療のための基礎研究 – translational researchの真髄 – Basic Research for Oral Cancer Treatment -The Essence of Translational Research-

ワークショップ：基礎研究のエビデンスをセンスよく臨床に応用する – 現在進行中のtranslational research –

- 笠松厚志臨床准教授

講演：舌に生じた棘融解型扁平上皮癌の1例 [末梢血中ミトコンドリアDNA変異率の分子モニタリング]

ワークショップ：口腔扁平上皮癌亜型の治療 – 紡錘細胞，類基底細胞，棘融解型，等 –





2021年度

2022/3/25 令和3年度千葉大学大学院修了式・学位記授与式が行われました

2022年3月25日に千葉大学大学院の学位授与式・修了式が行われました。当講座からは5名の大学院生が博士課程を修了しました。

加瀬 郁子先生 学位論文 : Molecular pathogenesis of the coronin family: CORO2A facilitates migration and invasion abilities in oral squamous cell carcinoma (コロニンファミリーの分子生物学的解明: CORO2Aは口腔扁平上皮癌において遊走能・浸潤能を促進する)

川崎 晃平先生 学位論文 : Ginkgolide B regulates CDDP chemoresistance in oral cancer via the platelet-activating factor receptor pathway (血小板活性化因子受容体経路を介したギンコライドBによる口腔がんにおけるシスプラチン耐性緩和)

駒 綾香先生 学位論文 : Impact of oncogenic targets by tumor-suppressive miR-139-5p and miR-139-3p regulation in head and neck squamous cell carcinoma (癌抑制型microRNA(miR-139-5p/miR-139-3p)が制御する頭頸部扁平上皮癌・癌促進型遺伝子の探索)

野崎 龍之介先生 学位論文 : Lysyl hydroxylase 2 deficiency promotes filopodia formation and fibroblast migration (Lysyl hydroxylase 2 欠損による糸状仮足の形成と線維芽細胞の遊走促進)

野淵 崇史先生 学位論文 : Assay for transposase-accessible chromatin with high-throughput sequencing reveals radioresistance-related genes in oral squamous cell carcinoma cells (Assay for transposase-accessible chromatin with high-throughput sequencing 法による口腔癌細胞における放射線耐性関連因子の同定)

